

【鴨川市に天文台をつくろう会】ご紹介

戻る



ハレー彗星

1、会発足の背景

きっと皆さんもご存知の「ハレー彗星」が今から20年前76年ぶりに地球に接近する際自分たちの観測所で観察しようと中高校～大学～社会人時代の星好き仲間8人で鴨川市北風原の小高い丘に共同観測所を建設しその勇姿を観察したのがきっかけでその後種々の活動を続けていました。

この20年にわたる活動の中、口コミで星を見たいとの要望が増え観測所での星見会や小学校等訪問での観測会を開催してきました。しかし、更に要求が増えるに従い不特定多数の訪問客の対応が困難となり是非だれでもいつでも星を観察できる「公開天文台」の建設を推進しようと2003年に本活動がスタートしました。

活動には、「今まで星を見たことが無いけど是非鴨川のきれいな星を見たい人」、「鴨川や南房総の自然で教育をもっと充実させたい人/一緒に南房総を素敵にしたい人」、「文化施設建設に理解を示す人」、「観光に大変効果があると考え人」、「星や自然で子供を遊ばせたいと考える人」また「千葉県内外出身の国立天文台在籍等の専門家」、更に「公開天文台だけでなく国立天文台建設に携わっている人」等多方面の方々での活動を行っています。

天文学者、南房総文化人、教育関係者、議員の方々を顧問、代表を南房総にて教育に携わってきた社会教育主事の石井哲爾とし、その下に事務局、更に3つの委員会と会員にて組織されています。会費（年間1000円）納入と会則了解にて会員となることができ、現在63名の会員からなります。また賛同署名を募っており、現在県内外広範囲にわたって6000名を超える署名を集めております。

3、活動

(ア) 天文普及活動：星の神秘を知っていただくための、「観測会」「写真展」「講演会」「自分で望遠鏡を作ろう会」等や多くの方々の意見を頂くための署名活動もおこなっています。

(イ) 調査・提案活動：各地の公開天文台や科学館、更に観光施設、健康普及活動等の調査より具体的な建設・運営提案活動を行政、企業等へ行っております。

(ウ) PR活動：新聞・ラジオを始めとするマスコミでの広報、更に昨年は国立天文台からの要請によるNHK高校地学教室のハイビジョンカメラを使ったロケ協力を実施しました。これは天の川（銀河）の撮影に南房総の星の美しさが評価された証しだと考えています。



鴨川天体観測所観測室と仲間達



本多鴨川市長への提案



NHK地学講座ロケ記念写真



天体写真展風景



3、なぜ鴨川市に天文台を？

(ア) 鴨川は首都圏から100Km圏内とのドライブや電車で簡単に訪れられる首都圏内にもかかわらず、海の藍～山の緑～空の青と自然が豊富です。特に夜の星は環境庁星空間調査（鴨川天体観測所協力）にて現在日本/世界でもっとも大きい公開望遠鏡（主鏡直径2m）のある西はりま天文台と同等の環境です。また星の観察に大切な東から南の空は大きく広がる太平洋で大変見通しがよく天文学者も南天の星の観察が必要な時はよく訪れます。

(イ) 全国に多くある「公開天文台」は全国で千葉県だけに存在しません。「公開天文台」とは一般の方がいつでも星の観察や星と遊ぶことができる施設で、「大型望遠鏡」や「プラネタリウム」、「展示」等を備えた施設です。「彗星：ほうき星」、「流星群：流れ星がたくさん流れる日」、「日食：太陽が月に隠される現象」等々多くの天文現象の際に、マスコミや一般の方々への情報提供の機能も果たします。

(ウ) 最近叫ばれている「癒し」に対しても星の観察やプラネタリウムは人気があります。「ヒーリングプラネタリウム」は都会で疲れた方々がたくさん訪れ、「星の投影」に加え「音楽」「写真」「簡単な運動」そして「香り」等各分野の専門家がアレンジしたプログラムで疲れを癒してくれると人気です。また妊婦さんの不安をこのヒーリング効果で癒す「マタニティープラネタリウム」も各地で試されており、妊婦さんがプラネタリウムで癒され始めるとお腹の赤ちゃんが元気に動き出すそうです。現代のストレス時代に鴨川の自然と天文台が「癒し」にて果たす効果は大きく、鴨川をはじめ南房総の宿泊型観光、長期滞在型観光に対しても期待が大きいと考えています。



小林登東京大名誉教授（小児科学）は「妊婦が不安になるとアドレナリンの分泌が増えて血管が収縮し、胎盤への血流量も低下すると考えられる。静かに音楽を聞きながら満天の星空を見上げて、穏やかな気持ちになるのは医学的にも理にかなっている」と話されています。＜毎日新聞＞

4、公開天文台いろいろな星たち



和歌山県みさと天文台



鳥取県佐治天文台



星のむら天文台

